

◆ 平成 27 年度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：NPO法人 荒川流域ネットワーク

代表者：代表理事 鈴木勝行

URL : [http:// arariver.seesaa.net/](http://arariver.seesaa.net/)

1. 活動が必要とされた状況

平成 18 年から激増した東京湾から遡上してくる稚アユを、アユが成長する入間川水系の各河川の清流域まで遡上させるため、それを拒んでいる大きく落差が発生した取水堰等に魚道を設置するよう県に求めてきた。私たちの提案に対して、県は入間川の川越市と狭山市にある 8ヶ所の堰等に対して遡上環境を改善するため、魚道設置事業を行っている。これは、貴財団の支援を受け 6 年間遡上環境調査活動を続けてきた成果であるが、設置された魚道の効果検証を行うことで、今後の改修等を行うためのデータが必要となった。また、今後進めてもらいたい越辺川水系での魚道設置事業のためにも重要である。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

5 月 8 日と 9 日の 2 日間、入間川の菅間堰に設置された魚道の下で、述べ 25 名が参加して、稚アユのアブラビレを切除する標識作業を行い、魚道の下に 2 日間合計で、4,462 尾の標識アユを放流した。標識を付けられなかった稚アユ約 3 万尾は、菅間堰上流からそのまま放流した。

放流直後の 5 月 8、9 日と 5 月 19～23 日まで、魚道にブロックの仮置等をしなが、ビデオカメラによる遡上調査を行った。

関係する 3 漁協の投網の解禁に合わせて、7 月 1 日から 10 月 15 日まで入間川、都幾川、越辺川、高麗川、小畔川の 5 つの河川で投網を中心に調査を行った。調査回数は、合計 36 回。調査延べ人数 100 名だった。内 3 回は地曳き網を使った参加型の調査も実施した。

7 年間の活動を冊子にまとめ各団体に配布、入間川水系と越辺川水系の遡上環境を情報提供した。



菅間堰下での標識作業の様子。

(H27 年 5 月 8 日)



高麗川での地曳き網での調査の様子。(H27 年 8 月 22 日)

3. 活動の成果

1. 今年の調査で、私たちネットワークで捕獲できた標識アユは小畔川ので南小畔川との合流点の 1 尾だけであった。他に情報提供として入間川と高麗川で 1 尾ずつの捕獲情報があったが、回収率は少なかった。菅間堰の魚道は、改修する必要があるという結論がでた。
2. 流域再生シンポジウムでの情報の共有化を通して入間川・越辺川水系の流域の多くの人たちにアユの遡上環境改善に取り組む意思統一ができた。

4. 今後に残された課題

今まで設置されてきた入間川の 8ヶ所の魚道の効果検証を調査し、必要であれば、具体的な改修についての提案をする。また稚アユの遡上に向け各地域の NPO 団体として、ソフト面でもできることを取組んでいく必要がある。今後は越辺川水系の各河川に対して、魚道設置や堰の改修等で遡上環境を改善していくための、地域の団体と協力しながら、活動を具体的に進めていく必要がある。